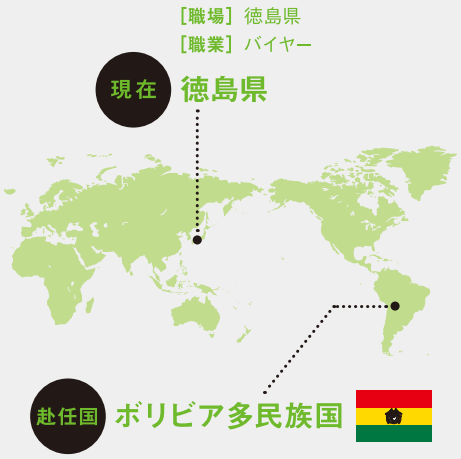

都市と里山をつなぎ、自分たちの新しい故郷をつくる

滝下 智佳さん　徳島県神山町在住 神山ルビィ代表
Chika Takishita

日本を飛び出したからこそ共感できる世界のこと、都会で働いたからこそわかる里山のすばらしさ。これまでの人生経験から導き出された答えは、「自分たちの未来は自分たちでつくる」ということ。滝下さんはThink globally act locallyの実践者である。

持続可能な暮らしを求めて

地方創生の成功例として、たびたびメディアに取り上げられる徳島県神山町。ITやデザイン、映像関連企業などがサテライトオフィスを構えるほか、町の将来に必要な働き手や起業家などを逆指名する「ワークインレジデンス」という制度により、飲食業関係者や農業従事者、アーティストなど、さまざまな職業の人が移住している。

地域おこし協力隊として、家族と共に東京から移住した滝下智佳さんもその一人。青年海外協力隊員として南米のボリビアに派遣され、帰国後は東京で国際理解教育などの仕事をしていたが、「持続可能」という言葉を使うたびに、食糧やエネルギーを世界に依存する日本の暮らしについて疑問を感じていた。そんな中、東日本大震災が発生。「まずは自分の暮らし方から変えていかなければ」と思うようになり、出産をきっかけに田舎暮らしを決意。2015年、地域おこし協力隊として神山町での活動を始めた。

地域おこし協力隊で得た農家との信頼関係

神山町は大部分を山林が占める人口約5,300人の小さな町。町内には四国八十八カ所霊場の札所があり、お遍路さんをもてなす風土があるためか、いわゆる閉鎖的な田舎ではなく風通しのいい場所だった。

「神山町には、私がボリビアで学んだ３つの大切なこと、『持たないことは不幸ではない』『教える、変えるより、伝える、共有する』『人と関わり合いながら暮らす』がすべてありました。町の人たちは温かく、暮らしはとてもクリエイティブ。昔からあるものと今のものをうまく組み合わせる暮らしの知恵に感動

12月になれば、町のお母さんたちと一緒にヨモギの田舎餅づくり。地域おこし協力隊卒業生も参加し、よもやま話に花を咲かせる。

梅干し『神山ルビィ』は、今や食通を唸らせる逸品。ふるさと納税の返礼品だけにおさまらず、都内のカフェでも販売されている。

都内で梅シロップのワークショップを開催。暮らしの知恵を都会の人とシェアすることが、食文化の継承にも繋がっている。

し、私もそんな暮らし方をしたいと思ったのです」

地域おこし協力隊の主な仕事は、町の主産業である梅とすだちのプロモーションをとおして町を元気にすること。昔からの製法にこだわり、塩と紫蘇だけで漬け込んだすっぱい梅干しは『神山ルビィ』と名付けられ、梅干し農家の顔が見えるギフトセットとして商品化された。梅を使った保存食の作り方などの暮らしの知恵を都会の人とシェアすることで、町の外と中を繋いでいった。

「農家さんと一緒に活動したおかげで深い信頼関係ができ、今もそれが大きな財産になっています」と滝下さん。

知らないコミュニティに入り込み、その土地ならではのモノとヒトを巻き込んで新しいカタチを生み出していく―青年海外協力隊時代に培われた力が、地域おこし協力隊の活動でも活かされた。

都市と里山を食で結ぶ その先には食文化の継承も

現在は個人事業主として独立。都内の飲食店に神山町の野菜を直送するほか、梅干し販売も続けている。地域おこし協力隊の活動終了と共に終わる予定だった『神山ルビィ』を引き継いだのは、町の外との繋がりを楽しみにする梅農家さんに、簡単に「やめます」と言えなかったからだとか。

「私のテーマは都市と里山を食で結ぶこと。外から来た者の役割として、作り手の想いやその価値が伝わるような売り方をしたい、町の外での声を農家さんに伝える橋渡しがしたいと思ったのです」

地元のお母さんたちから教わった柚子味噌やコンニャクづくりなど、農作物を保存食にして、長く様々な方法で楽しむ知恵にも魅了されている滝下さん。都市と里山を食で結ぶその先に、食文化の継承を見据えている。

町の課題に当事者として 向き合う

もうひとつの活動として取り組んでいるのが子育て支援。滝下さんには、豊かな自然や人との繋がりの中で子どもを育てたいという希望があった。しかし、学校の統廃合によりスクールバスで通学する子どもが多く、すぐそこにある山や川で自由に遊ぶ機会も意外に少ないという。

滝下さんの夢は、木育※を主体とする子育ての輪を広げていくこと。町の子も、町の外の子どもたちも一緒に、親子で自然に親しめる機会を提供したい。「子育て世代の定住」という町の課題に対し、当事者として向き合っていく覚悟がある。

「来る者は拒まず去る者は追わず」のお遍路文化の中で、本気でこの地に足をつけて生きていこう、自分も町も元気に！と活動する仲間たちと共に、滝下さんは「町の暮らしを楽しみながら、自分たちの新しい故郷をつくっていきたい」と心を躍らせている。

滝下 智佳さん プロフィール

徳島市生まれ。大学でマレー・インドネシア語を学びながらバックパッカーとして東南アジアを巡る。卒業後、子ども向け教材開発の会社に就職。青年海外協力隊に参加するために退職し、2007年1月から2年間、青少年活動隊員としてボリビアで活動。帰国後はJICAでの勤務を経て、地域おこし協力隊として徳島県神山町に着任。任期満了後は同町で起業し、都市と里山を食で結ぶ活動を行っている。

滝下さんへのエール！

徳島県神山町
町長
後藤 正和さん

町の課題に向き合う姿に期待しています

いま神山町では子どもの数が減り、一人っ子世帯も多いため遊び相手がいないような状況にあります。幼い頃に自然の中で遊んだ経験は、人格形成にも大いに役立つという研究もありますから、『森の幼稚園』のような自主保育の運営を考えている滝下さんには、とても期待しているんですよ。

※市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、木材利用に関する教育活動。